ロタウイルスワクチンについて

～予防接種に欠かせない情報です、必ずお読みください～

１．病気の説明

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期（０～６歳ころ）にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染してしまいます。ふつう、５歳までにほぼすべての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、症状が出ませんが、乳幼児は、激しい症状が出ることが多く、特に初めて感染したときに症状が強く出ます。そのため、早期に接種を開始し、早期に既定回数を完了することがすすめられます。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴や入院が必要になることがあります。

２．接種について

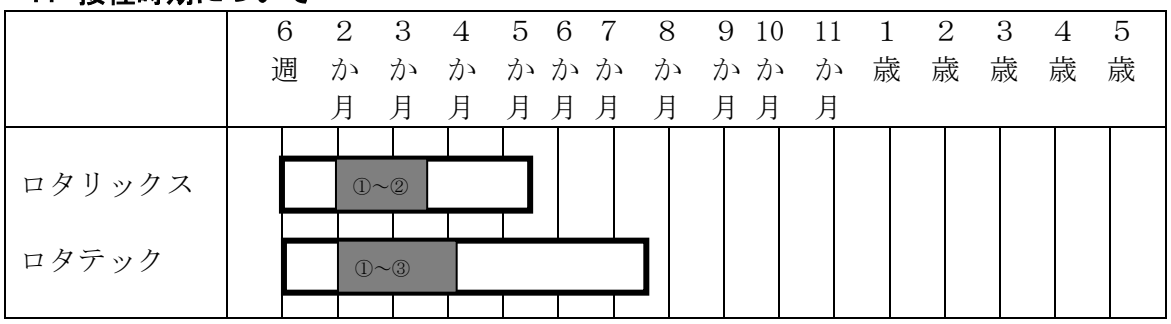
ロタリックスまたはロタテックを口から飲みます（経口接種）。いずれも生ワクチンとなり、それぞれ接種回数や接種量が異なります。本ワクチンの使用により、ロタウイルスによる感染性胃腸炎の重症化防止が期待できます。どちらのワクチンも、効果や安全性は変わりません。なお、接種後に吐き出しても追加の投与は必要ありません、
原則として、いずれか一方のワクチンのみを用いて接種を行ってください。

ワクチン名	ロタリックス「経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン」（１価）	ロタテック「５価経口弱毒生ロタウイルスワクチン」（５価）
接種回数	２回	３回
接種月齢	出生６週０日後から 24 週０日後まで	出生６週０日後から 32 週０日後まで
接種間隔	２回目：１回目から 27 日以上の間隔をあける	２回目：１回目から 27 日以上の間隔をあける ３回目：２回目から 27 日以上の間隔をあける
標準的な接種間隔	初回接種は生後２月から出生 14 週６日後までに行う。	
接種量	1.5ml	2.0ml

３．ワクチンの副反応について

ワクチン添付文書によると、副反応は、腸重積症※、下痢、発熱、皮膚炎などがあります。また重大な副反応として、非常にまれですが、次のような副反応が報告されています。○ショック、アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）

※腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることで、０歳児の場合、ワクチン接種しなくても起こる病気です。月齢が上がるにつれて多くなるため、腸重積症の起こりやすい時期に重ならないためにも、接種は遅らせず、早く完了させてください。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。

■泣いたり不機嫌になったりを繰り返す　■嘔吐を繰り返す
■ぐったりして顔色が悪くなる　■血便がでる

４．接種時期について